

社会科学習指導案

三次市立布野小学校

指導者 掛田 直美

- 1 日 時 平成 26 年 11 月 14 日 (金) 第 2 校時
- 2 学 年 第 4 学年 10 名 (男子 4 名, 女子 6 名)
- 3 単元構成 「わたしたちの県」(全 27 時間)
小単元 「県の広がり」
小単元 「特色ある地いきと人々の暮らし」(本単元)
小単元 「世界とつながるわたしたちの県」
- 4 本単元「特色ある地いきと人々の暮らし」について

(1) 単元観

小学校学習指導要領 内容(6)

「県の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県の特色を考えるようにする。」

ウ 県内の特色ある地域の人々の生活

本単元では、広島県の地形や産業などの概要や分布に見られる特色、及び地域の自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域やそこでくらしている人々の生活に見られる特色やよさを具体的に考えることができるようにすることをねらいとしている。これらを受け、本単元では、「土地の特性をいかした産物を活用している地域」として、三次市のピオーネ作りと瀬戸田町のレモン作りを、「古くから伝わっている技術や技法を受け継いでいる地域」として、熊野町の筆作りを取り上げて学習する。

瀬戸田町では、瀬戸内の温暖で雨の少ない気候や地形をいかしてレモン作りに取り組み、国内産レモンの需要の変化とともにレモン作りの歴史を展開し、今では大長レモンとともに「広島レモン」という名前で国内産レモンの日本一の生産高を誇っている。また、三次市のピオーネは盆地特有の気候がピオーネの熟成期に大きな効果をもたらすことや、ピオーネ生産組合が生産量上げるための努力や工夫を続けてきたことから今では「黒い真珠」とよばれ、そのブランド力で贈答用などに多く用いられるような広島県を代表するぶどうとなっている。

安芸郡熊野町では、江戸時代の終わり頃から筆作りが盛んになり、熊野町の筆は 1975 年(昭和 50 年)に伝統工芸品の指定を受けている。現在、毛筆、画筆、化粧筆などが主に生産され、全国一のシェアを占めるとともに、まちをあげて筆に関するイベントを行い、まちづくりに筆作りをいかしている。

本単元で取り上げた 3 つの地域の学習を通して、広島県には様々な特色をいかした地域があり、人々はその特色をいかして工夫して生活していることをとらえさせる。また、このような学習を通して、自分たちが住む広島県の自然環境、伝統や文化などの特色について考えさせることは、自分たちの県に誇りと愛情をもち、地域社会の発展を願う態度を育てることにつながる単元である。

(2) 児童観

本学級児童の社会科学習に関するアンケート(9月実施)は、以下のような結果だった。

アンケート内容	肯定的な回答
社会科の学習は楽しい。	80%

社会科の学習で考えることが好き。	90%
社会科の学習では、比べてちがうところ、にているところを見つけ、そこから分かることを考えている。	80%
調べたことをいくつかつないで、そこから分かることを考えている。	70%
「つまり、～だ。」などと調べたことなどをまとめて考えている。	70%
友だちの意見と自分の意見を比べたり、かかわらせたり、まとめたりしてつなげながら話している。	70%

これらのことから、児童が比較・関連・総合の考え方を使おうと意識しながら取り組んでいることが分かるが、実際にこれらの考え方をを使って思考力・判断力を深めて力をつけるところには至っていない。1学期の社会科の学習では、資料から分かったことを読み取り、読み取ったことをもとに課題解決に向けての思考を深める場のある授業づくりに取り組んできた。その結果、資料から分かることをいろいろな面からとらえることはできてきたが、単発な考えに終わってしまい、それらの事象を関連付けて考えをさらに深めることはできていない。

広島県の特色あるものについて児童にアンケートをとってみると、ほとんど具体的なものを挙げるができなかった。また、三次市のピオーネ作りについては、身近な果物として名前を聞いたり食べたりしたことはあるが、どこでどのように作られているのか、作り方の工夫などについては知らない。同様に、瀬戸田町のレモン作りについても熊野筆についても聞いたことはある程度で詳しくは知らない状況である。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の点に留意して行う。

本単元では、はじめに、広島県内の特色をもった地域の大まかなことをとらえるところから問題意識を持たせ、単元全体を貫く学習問題を設定する。そして、毎時間の課題解決がその学習問題の解決に結びつくことを意識して指導を進める。

授業の導入場面では、児童の知識や概念を揺さぶったり、児童が興味・関心をもって学習問題に向かえるような資料提示を行ったりしていきたい。

思考力・判断力・表現力の育成に向けては、授業の展開場面で、児童の思考を深めたり、事実を確かめたりすることができるような資料を提示し、調べる活動を通して知識を蓄積させる。その後「なぜだろう」「どうしてだろう」と立ち止まって考えることができる発問を行い、比較、関連、総合などの思考の方法を用いて考えることで児童の思考力を高めていく。また、表現する力をつけるためには、調べたことをノートに書いて整理させ、机間指導で評価していく。さらに、自分の考えを書く時間を十分確保し、考え方モデルを活用して書くことで、自分の考えの表し方を身につけることができるようにする。そして、児童一人一人が自分の考えを伝える力をつけるために、場合によっては、ペアトークやグループトークを取り入れて、発言の場を設定していく。

5 本単元の目標

- 広島県では、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している人々が、特色あるまちづくりをしていることを理解し、自分たちの住んでいる地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
- 地域の人々の生活と自然環境、伝統や文化などとの関連、願いを実現していく人々の工夫や努力、協力と生活の維持と向上との関連について考えたり、具体的資料を活用して調べて考えたことを分かりやすく表現したりする。

6 本単元の評価規準

ア社会事象への 関心・意欲・態度	イ社会的な 思考・判断・表現	ウ観察・資料活用の 技能	エ社会的事象についての 知識・理解
①広島県内の特色ある地域の様子に関心をもち、意欲的に調べている。 ②広島県の地域の特色やよさを考えようとしている。	①広島県内の特色ある地域の人々の生活について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②広島県内の地域の特色を相互に比較して、自分たちが住んでいる県の特色やよさを考え適切に表現している。	①地図や資料を活用したり、インターネットを活用したりして、広島県内の特色ある地域の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを白地図や作品などにまとめている。	①広島県内では土地の特性をいかして特色あるまちづくりに取り組んでいる地域や、そこに見られる人々の生活の特色を理解している。 ②広島県内では、古くから伝わっている技術や技法を受け継いだ伝統的な産業が行われている地域や、そこに見られる人々の生活の特色を理解している。

7 本単元の指導計画（全13時間 本時4/13）

次 (時数)	主な内容と学習活動 [知識の構造図との関連]	関 意 態	思 判 表	技 観	知 理	評価規準	評価方法
つかむ ー (1)	広島県のいろいろな特色をもった地域について知ることから学習問題を作り、調べる計画をたてる。 [①]	○	◎			県内の特色ある地域の人々の生活に関心をもち、意欲的に調べようとしている。(アー①) 県内の特色ある地域や人々の生活についての学習問題を作り、学習計画を考え表現している。(イー①)	発言 ノート
それぞれの地域でどうして産業のちがいがあろうのだろう。							
	瀬戸田町では瀬戸内の温暖で雨の少ない気候をいかしてレモン作りを行っていることを理解する。[②]				○	瀬戸田町の自然や地形の特徴とレモン生産との関係を理解している。(エー①)	発言 ノート
	瀬戸田町ではレモンの生産量や出荷量の増加を目的とした工夫した取組を行っていることについて考える。[③]		○			生産量や出荷量の増加にむけていろいろと工夫した取組について考えている。(イー②)	発言 ノート

<p>三次市では、昼夜の寒暖差が大きい気候を利用しながら、工夫してピオーネ作りに取り組んできたことについて考える。【本時】 [④]</p>	○			<p>三次市では気候の特性をいかしながら工夫して、ピオーネ作りを行っていると考えている。(イ-②)</p>	<p>発言 ノート</p>
<p>三次ピオーネの生産量を上げるために行ってきた取組について資料をもとに調べ、その工夫を理解する。 [⑤]</p>		◎	○	<p>責任分担制や加温ハウス栽培について資料から読み取っている。(ウ-①) 生産量を上げるために、責任分担制や加温ハウス栽培を取り入れたことを理解している。(エ-①)</p>	<p>発言 ノート</p>
<p>三次ピオーネ生産組合では、計画的で品質が統一されるような生産・出荷の工夫により、消費者の信用を得ていることについて考える。 [⑥]</p>	○			<p>三次ピオーネが消費者の信用を得るために計画的収穫や出荷の工夫をしていることについて考えている。(イ-②)</p>	<p>発言 ノート</p>
<p>三次ピオーネや瀬戸田レモンについて学習してきたことをもとに特色を白地図にまとめるとともに、その他の自然環境や土地の特性をいかした地域と人々の暮らしについてとらえる。 [⑦]</p>		◎	○	<p>学習した内容を白地図にまとめている。(ウ-②) 広島県内の自然環境や土地の特性をいかした地域と人々の暮らしについて理解している。(エ-①)</p>	<p>発言 白地図</p>
<p>熊野町では筆作りが盛んであることを資料を通して調べる。 [⑧]</p>		○		<p>熊野町の筆作りの様子を資料をもとに調べ、まとめている。(ウ-①)</p>	<p>発言 ノート</p>
<p>熊野町では筆作りの技術がどのように受け継がれてきたか理解する。 [⑨]</p>			○	<p>熊野町の筆作りの過程を通して筆作りの技術が受け継がれてきた様子を理解している。(エ-②)</p>	<p>発言 ノート</p>
<p>熊野町では筆作りをまちづくりにどのようにいかしているのか考える。 [⑩]</p>	○			<p>熊野町では筆作りをまちづくりにどのようにいかしているかについて考えている。(イ-②)</p>	<p>発言 ノート</p>
<p>熊野町について学習してきたことをもとに古くから伝わっている技術や技法を受け継いだ伝統的な産業が行われている地域について白地図にまとめる。 [⑪]</p>		◎	○	<p>学習した内容を白地図にまとめている。(ウ-②) 県内の地場産業のさかんな地域について理解している。(エ-②)</p>	<p>発言 白地図</p>

三 (2)	学習した地域について、白地図をもとに比較しながらその特色が分かるようにまとめ、県内各地の人たちがどのようにくらしているのか考える。(2時間) [⑫]	○	◎	広島県内の地域の特色やよさを考えようとしている。 (ア-②) どの地域にも特色のよさをいかした人々のくらしがあることを考えている。 (イ-②)	発言 ノート
	広島県には、それぞれ土地の特性をいかしたり、古くから伝わっている技術や技法をいかしたりしている地域があり、その発展に努めている人々がいるから、瀬戸田町のレモン作りや三次市のピオーネ作り、熊野町の筆作りのように地域によって産業のちがいが生まれている。				

8 本時の学習

(1) 本時の目標

三次市のピオーネ作りは、三次市の昼夜の寒暖差が大きい気候を利用しながらそれに携わる人々が工夫して取り組んでいることについて考える。

(2) 本時の評価規準

三次市では昼夜の寒暖差が大きいという気候の特徴をいかしながら工夫してピオーネ作りを行っていると考えている。(社会的な思考・判断・表現)

(3) 準備物

三次ぶどうの里・ピオーネ看板写真(資料①) 広島県の立体地図(資料②) 三次市・瀬戸田町平均最高気温グラフ(資料③) 三次市・瀬戸田町平均最低気温グラフ(資料④) 農業技術センターの人の話(資料⑤) ビニール被覆の写真(資料⑥)

(4) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点	育てたい思考の方法	評価規準(評価方法)
つかむ	○発問 ・予想される児童の反応 1 三次市でピオーネ作りをしている理由について、瀬戸田町のレモン作りを学習したことと比べることを通して学習課題につなげる。 ○なぜ三次市ではレモンではなくピオーネを作っているのだろう。 ・三次市は寒くて温暖な気候ではないから、レモンは作ることができない。 ・三次市の気候がピオーネを作るのに向いていたから。	資料① 三次ぶどうの里・ピオーネ看板写真 ○気候や土地の様子の違いに目を向けることができるように既習の瀬戸田レモンの学習の掲示物を参考にさせる。 ○三次市には瀬戸田町のレモン作りと同じように、ピオーネ作りに適しているところがあるのではないかと考えさせるためにレモンではない理由だけでなく、ピオーネである理由の両面から考えさせる。		
	瀬戸田町と比べると三次市のどのような気候がピオーネ作りに向いているのだろう。			

<p>2 三次市の地形がどのような地形なのかとらえる。</p> <p>○三次市と瀬戸田町の地形を比べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸田町は周りを海に囲まれているけど、三次市は周りを山に囲まれている。 ・瀬戸田町は島の真ん中に山があり、山の周りに平地があったけど、三次市は平地があつて周りが山。 	<p>資料②広島県の立体地図</p> <p>○掲示している広島県の立体模型図を使って土地の様子（瀬戸田町は瀬戸内海にある島・三次市は広島県の北部にある盆地）を確認する。</p>		
<p>3 三次市と瀬戸田町の気候の違いについて考える。</p> <p>○三次市と瀬戸田町では気候にどのような違いがあるのだろうか。</p>	<p>○瀬戸田町の平均気温と比べることで三次市の気温の特徴をとらえさせる。</p> <p>資料③三次市と瀬戸田町の平均最高気温のグラフ</p> <p>資料④三次市と瀬戸田町の平均最低気温のグラフ</p>	<p>比較</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">調べる・考える</p>	<p>○三次市の気候は瀬戸田町と比べてどんな特徴があるといえるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次市は瀬戸田町と比べて昼が暖かくて、夜がすずしい気候。 ・三次市は瀬戸田町と比べて昼と夜の気温の差が大きい。 	<p>「考え方モデル」を活用し、自分が思考したことを分かりやすく表現させる。</p>	
	<p>4 気候の特徴と人々の工夫や努力によって三次市では、ピオーネ作りが盛んになったことについて考える。</p> <p>○気候の特徴とピオーネの性質とは関係があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼夜の温度の差が大きいから色のこい、あまいピオーネができるので、三次の気候と合っている。 		<p>資料⑤農業技術センターぶどう担当の方の話（最後の1文は隠して提示）</p> <p>○昼夜の気温差が大きいとあまく色のこいピオーネができるという内容と気候の特色を重ねて確認させる。</p>

言語活動の充実

調べる・考える

考え方モデル（比較）を使った児童の反応

C：瀬戸田町よりも三次市の方が最低気温が低い。

C：瀬戸田町と三次市では最高気温はあまり変わらないけれど、最低気温を比べると三次市の方が低い。つまり、昼は同じくらいの暑さだけど、朝や夜は三次市が寒い。

	<p>○雨に弱いという難点をどうしたのだろうか。</p> <p>・三次でも雨は降るので雨に弱いところは困る。だから、ビニールでおおって雨にぬれないように屋根をつけた。</p>	<p>○資料⑤の隠していた最後の一文を提示する。</p> <p>資料⑥ビニールで被覆している写真</p> <p>○資料から雨に弱いところの問題をどのように解決してきたのかとらえさせる。</p>		
<p>5</p> <p>まとめ</p> <p>〔言語活動の充実〕</p> <p>まとめ</p>	<p>5 まとめ。</p> <p>瀬戸田町と比べると、昼と夜の気温の差が大きいという三次市の気候の特徴がピオーネ作りに向いている。この気候の特徴はピオーネの色をよくして、あまくする。ピオーネが雨に弱いところは、ピオーネ作りに取り組む人たちが雨にあたらぬような努力や工夫もしている。</p> <p>まとめとして期待したい児童の反応</p> <p>C：瀬戸田町と比べると、三次市は最高気温と最低気温の差が大きいので色づきのよい、あまいピオーネを作るのに向いている。ピオーネ作りに向いていない雨が多いところは雨をよけるためのビニールの屋根をつけるなど人々が工夫しながらピオーネ作りに取り組んでいる。</p> <p>C：瀬戸田町に比べて、三次市の気候の昼と夜の気温の差が大きいということがピオーネ作りに向いている。雨に弱いという気候の合っていないことについては、工夫しながらピオーネ作りをしている。</p>			<p>三次市では瀬戸田町と比べて昼夜の温度の差が大きいという気候の特徴をいかして工夫しながらピオーネ作りを行っていると考えている。</p> <p>(発言・ノート)</p>
6	振り返りをする。	○振り返りをすることで学習の気づき、友達の考えのよさをまとめさせる。		

(5) 板書計画

11/14 ⑤瀬戸田町とくらべると三次市のどのような気候がピオーネ作りに向いているのだろう。

看板

看板

なぜ三次市では瀬戸田町のようにレモンではなくピオーネを作っているのだろう。

グラフ

グラフ

お話

着色

着色指数

ビニール被覆写真

ビニール被覆写真

ピオーネ作りにつきしている。

雨にあたらぬ工夫

⑤ 瀬戸田町とくらべて三次市の昼と夜の気温の差が大きいという特ちょうがピオーネ作りに向いている。雨にあたるとよくないところは雨をふせぐ工夫をしている。

三次市の気候の特ちょう
 昼は瀬戸田町と同じくらいの気温だが、朝や夜は三次市の方が低い。
 三次市は昼と夜の気温の差が瀬戸田町とくらべると大きい。

気温の差補助資料

知識の構造図

